

大宮南地域まちづくり計画

「結の心でみんなが輝き 元気でにぎやかな大宮南」



薬師堂（奥大野）



平地地蔵（上常吉）



ふれあい朝市（谷内）



つねよし百貨店（下常吉）



三坂神社と千塩稲荷神社（三坂）

平成 26 年 3 月

大宮南地域（奥大野・上常吉・下常吉・谷内・三坂）

大宮南地域まちづくり計画目次

I 大宮南地域まちづくり計画の目的

II 大宮南地域の現状と課題

- 1 地域全体の現状と課題
- 2 分野別の現状と課題
 - (1) 生き活きとした地域づくり
 - (2) 地域で支え合う安らぎの地域づくり
 - (3) 地域の資源を活かした地域づくり
 - (4) 安心安全で暮らしやすい基盤づくり

III 大宮南地域の将来像

「結の心でみんなが輝き 元気でにぎやかな大宮南」

IV 計画の期間

V 計画の基本方針

- 1 生き活きとした地域づくり
- 2 地域で支え合う安らぎの地域づくり
- 3 地域の資源を活かした地域づくり
- 4 安心安全で暮らしやすい基盤づくり

VI 基本方針に基づく具体的対策

- 1 生き活きとした地域づくり
- 2 地域で支え合う安らぎの地域づくり
- 3 地域の資源を活かした地域づくり
- 4 安心安全で暮らしやすい基盤づくり

VII 今後5年間の重点対策

- 1 ソフト対策
 - (1) 生き活きとした地域づくり
 - (2) 地域で支え合う安らぎの地域づくり
 - (3) 地域の資源を活かした地域づくり
 - (4) 安心安全で暮らしやすい基盤づくり
- 2 ハード対策
 - (1) 生き活きとした地域づくり
 - (2) 地域で支え合う安らぎの地域づくり
 - (3) 地域の資源を活かした地域づくり
 - (4) 安心安全で暮らしやすい基盤づくり

VIII 大宮南地域まちづくり計画の体系

別表 地域における現状と課題・対策 (地区別)

- 1 生き活きとした地域づくり
- 2 地域で支え合う安らぎの地域づくり
- 3 地域の資源を活かした地域づくり
- 4 安心安全で暮らしやすい基盤づくり

資料 住民アンケート結果報告 (地区別)

活動日誌 (平成24年度～平成25年度)

平成25年度事業要望

平成26年度以降事業整備計画

大宮南地域まちづくり計画

I 大宮南地域まちづくり計画の目的

私たち大宮南地域（上常吉、下常吉、奥大野、谷内、三坂）にも少子高齢化の波が押し寄せてきています。若い人は働く場所を求めて地域から都会へと流れ少子高齢化が深刻化し、地域力減退の状況にあります。

また、当地区の経済状況は、厳しい状況に変わりはなく、新たな地域経済循環による雇用創出や安定した収入確保の仕組みの構築が急がれます。農業関係も、農家戸数は減少傾向にあり、高齢化も進み、離農や耕作放棄など地域農業の危機が現れ始め、有害鳥獣による農産物の被害も深刻化しています。

人々の生活の源流であるふるさとが限界集落となって水資源や食糧の生産基盤、そして自然環境の保全が危うくなってきていることから、命の里である地方の農村地域が昔のような活力「里力」を取り戻すため、大宮南地域の5地区が連携して、大宮南地域まちづくり協議会を発足いたしました。当協議会では、各地区の思いを計画的に進めるために「大宮南地域まちづくり計画」を策定することにいたしました。

II 大宮南地域の現状と課題

1 地域全体の現状と課題

大宮南地域は、上常吉区、下常吉区、奥大野区、谷内区、三坂区の5地区で構成され、668世帯、1,805人の地域である。この内、上常吉区、下常吉区、谷内地区は55歳以上の人口割合が50%を越え、そのうち上常吉地区と谷内地区は、65歳以上の人口割合も35%を超えている。当地域の人口は、昭和35年2,400人余りあったが、現在約1,805人と約25%減少するとともに、同時進行する少子高齢化ともあいまって地域力減退の状況にある。

大宮南地域の人口・世帯数及び高齢化率

(H26. 2. 28)

行政区名	世帯数	人口	55歳以上	準高齢化率	準高齢化集落該当	65歳以上	高齢化率	高齢化集落該当
奥大野	320	876	368	42.01		255	29.11	
上常吉	84	233	123	52.79	●	87	37.34	
下常吉	80	212	110	51.89	●	68	32.08	
谷内	103	267	145	54.31	●	106	39.70	
三坂	81	217	73	33.64		47	21.66	
計	668	1,805	819	45.37		563	31.19	

また、当地区は、地区面積20.55km²で大宮町の約3割を占め、林野率が90%近くある一方、耕地率は約8%の典型的な農山村地域である。また京丹後市の玄関口に位置する

国道312号及び府道野田川大宮線沿線の集落であり、その立地条件は恵まれている。

地域の名所史跡としては、西部に羽衣伝説で有名な磯砂山（いさなごさん）や雨乞い池として有名な女池（めいけ：上常吉）、南端には中郡平野が一望できる展望台や史跡のある崇山（あらたやま：谷内）があり、あざ取り地蔵で有名な平地の地蔵さん（上常吉）、また縄文時代から弥生時代、古墳時代、平安時代におよぶ多量の土器が出土した裏陰遺跡（大宮第二小学校付近）や中郡一といわれる前方後円墳で両袖式横穴石室の新戸古墳（奥大野）、丹後の卑弥呼と比喻されて話題になった女王の丘大谷古墳公園（三坂）など他にも多くの城跡や遺跡が残されている歴史とロマンあふれる地域である。

各地域自治の沿革は、明治4年7月の廃藩置県によって奥大野、谷内、三坂は久美浜県に、上常吉、下常吉は宮津県に所属していたが、明治4年11月に5地区はすべて豊岡県に編入された。その後明治9年8月に豊岡県が廃止され、京都府の所属となった。また、明治22年町村制の施行により、上常吉と下常吉が常吉村に、三坂、谷内は三重村に、奥大野は口大野と大野村に再編された。しかし、行政的結びつきや農業主体と機業主体の経済基盤の違いなどによって明治25年3月に奥大野村と口大野村に分村することになった。更に、昭和26年4月に奥大野村、常吉村、三重村は大宮町に廃村合併、平成16年に大宮町は京丹後市に合併することになり現在に至っている。

産業については、現在の厳しい状況のなか基幹産業である織物業、機械金属業においても生き残りをかけて新たな挑戦を進めている。また豆腐製造業や製麺業、酒造業など中小業者も経営の継続を図り、地域産業に寄与しているが、厳しい状況に変わりはなく、新たな地域経済循環による雇用創出や安定した収入確保の仕組みの構築が急がれる。農業関係においては、農地の基盤整備は完了し、水稻や畑作の中核農家が育ってきているが、農家戸数は減少傾向にあり、高齢化も進み、離農や耕作放棄、農地の遊休化など地域農業の危機が現れ始めている。さらに、有害鳥獣による農産物の被害も深刻化している。

当地区には、伝統・文化・記念物などの地域資源も多く、特に秋祭りは各地区で盛大に伝統芸能が継承されている。また、コミュニティー活動、自治活動、消防・防災活動、福祉・安心・安全活動、社会体育・教育活動も活発に行なわれているが、青年層人口の減少や少子化等によって担い手不足もでてきている。

こういった各区の地域力が減退するなか、昭和55年大宮第二小学校開校後にPTAはもちろんのこと区長会、消防団、公民館など公機関の連携や新たに大宮第二小学校の子供を守る会の設置が始まるなど、区民レベルの交流が活発に行なわれているが、個々の活動にとどまっており、なかなか地域状況は改善されていないのが現状である。

2 分野別の現況と課題

(1) 生き活きとした地域づくり

① イベントについて

大宮南地域の各地域で納涼祭（夏祭り）、万灯、地蔵盆、秋祭り、区民運動会など定着したイベントとして毎年実施している。その他、平地地蔵祭り、パンプキンフェスティバ

ル、除夜の竹灯籠などが下常吉で、観音祭り、ボーリング・グランドゴルフ大会などが三坂で、倉垣音楽祭（DOTEどてコンサート）、ええ里づくり、花いっぱいの花街道、倉垣桜公園祭り、春秋村内道路一斉クリーン作戦、オープンガーデン、オープンカフェ、田んぼリンピック、子供キャンプ、区民体育大会などが奥大野で地域の特色あるイベントとして実施されている。

イベントの目的は、人材育成と世代間交流である。当地域では、定着したイベントがたくさんあるが、参加者の停滞、固定化やマンネリ化が起きている。しかし、イベント内容の工夫によって奥大野の納涼祭などは参加者も増加している。働き盛りの年代の参加者が少なく、スタッフ等新しい人材の発掘と確保が困難となっている。特に、地藏盆や秋祭りなど子供が参加するイベントでは、子供の減少で運営に支障がでてきている。積極的に若者や女性を登用、また外部からの応援システムを構築することも必要ではないか。また、イベント、行事に対する考え方、価値観が年代によって温度差が広がっている。

5地区がそれぞれにイベントを開催しているが、大宮南地域としての活性化イベントがないので、小学校の統合を機に、区役員での交流など大宮南地域交流イベントを行ってはどうか。

②伝統行事について

上常吉では山神祭り、奥大野では観音堂祭り、薬師堂祭り、朝姫稻荷神社例祭、八幡宮祭り、還暦しめ縄づくりなどが毎年開催されている。

山神祭りは、区役員が運営の責任を持ち実施しているが、参拝者は限られている。伝統行事は施設管理が中心となっている。伝統行事においても少子高齢化によって参加者やスタッフ不足が生じており、運営に支障が生じている。

③観光・特産物について

《観光》

平地地藏のみの着せ、磯砂山・崇山の山頂絶景、各地区の神社、倉垣桜公園、国営奥大野団地（パッチワーク農場）、薬師堂、観音堂、平太郎丘からの眺望、裏陰遺跡、新戸古墳などの観光資源がある。小町温泉を活用したホテルではガーデンバーベキューが盛況である。また、オープンガーデン、オープンカフェ、花の道など庭や花を活用した街歩き観光が定着してきている。

しかし、登山道・周遊道路の整備やトイレの設置、見学ルート・ウォークラリーコースの整備、古くなった施設の補修など観光施設の整備と地域の観光客を受け入れる体制づくりが必要である。

《店舗・特産物》

コミュニティービジネス施設、酒屋、食堂、豆腐屋、うどん屋、食品店、陶芸、アジア雑貨、居酒屋、ちりめん・帯販売、建築屋など地域にはいろいろな店舗があり、米や野菜、お酒・芋焼酎、和装品（ちりめん着物、帯）うどん、豆腐、農産物加工品（漬物、もちなど）など地域の特産品を販売している。

花屋や喫茶店など女性にはうれしい場所をたくさん提供できればもっと多くの人が来

られると思う。休耕田、遊休農地を活用してこんにゃくやそばを特産品にできないか。

《交流》

米づくり、田んぼリンピック、野菜の収穫、虫鑑賞、こんにゃくづくり、シイタケ菌打ちなどの農業体験交流やオープンガーデン、オープンカフェ、無農薬野菜を使った畑のレストランも素敵な催しで、もっと都会の人にアピールして交流人口を増加できないか。広域的な取り組みで村づくり交流会を再開できないか。さくら草、芝さくら、ひまわり、桜、パンジー、サルビアなど四季の花街道をテーマに街歩き交流・観光ができないか。

また、農業体験や食育、田舎暮らし体験のお客様を宿泊できる施設が必要ではないか。

(2) 地域で支え合う安らぎの地域づくり

①児童福祉について

児童の登下校の安全を確保するために、現在地域全体で大宮第二小学校区の子供を守る会を組織し、見守りを実施しているが、平成25年4月に大宮第二小学校と大宮第三小学校が廃校になり、大宮南小学校が新設されるので新しい体制づくりが課題である。また、夏期の子供キャンプ、廃品回収、地域内道路のゴミ拾いなど子供たちと一緒に環境保全の取り組みが実施されている。しかし、指導者が少なく、負担が大きい。子供への地域の関わりがもっと必要である。安心安全のための防犯カメラを設置してはどうか。下常吉の神社の階段を整備して夏の相撲大会を復活開催してほしい。

各地区で子育てサロンを実施し、親子の交流を図り、子育ての不安や支援を進めている。子供たちが地域の自然と関わる取り組みや子供を遊ばせる場所プレーパークづくりが必要である。また、SNSを健全な使い方で活用するために大人を含めた講習会等が必要ではないか。少子化で、母親として幼児、児童の養育をどう教育するか、子供に対する親の教育が必要である。

※SNSとは、ソーシャル・ネットワーキング・サービスのことで、社会的ネットワーク（人と人とのつながり）をインターネット上で行うサービス。

②高齢者福祉について

長寿会等高齢者の組織体制は各地区ともできており、公民館行事などと連携してスポーツ活動などを中心に交流活動は一定できているが文化面での活動が広がらない。組織の強化と生きがい対策等を実施して元気な中高齢者づくりが必要ではないか。また、高齢者の人づきあいが悪いという意見もある。高齢者の見守りについては、民生児童委員、隣組長や隣近所のみなさんにお世話になっており、家庭など日常での一般的な声掛けや関わりが必要ではないか。安心安全のために防犯カメラを設置してはどうか。

地区福祉の会や公民館などの主催でふれあいサロンを開催しており、高齢者にとって文化活動や憩いの時間、若い人との交流の場となっている。しかし、参加者も限られており、もっと気軽に参加できるお茶飲みサロンやミニサロンなどちょっと集まれる場所や一般区民も対象に空き家等を活用したふれあいサロンなども検討したらどうか。また、福祉介護施設などとの交流ができないか。

独居老人など災害時要支援者への対応については、民生児童委員、地区社会福祉委員や隣組長、また自主防災会員などによって行われている。特に、年1回の防災訓練時に区、消防団、自主防災会、民生児童委員が連携して要支援者の担当を決め、要支援者の家庭配置図を作成し、安否確認や避難誘導訓練などを実施している。また、高齢者の屋根の雪下ろし、除雪は自主防災会員に依頼して行っている。

高齢者にとっては、買い物に行ったり、気晴らしをすることも大切であるが、足の確保が課題となっているので、送迎や弁当配達については元気老人の方で取り組めないか。また、弁当の宅配サービスは民間業者がやっているの、そこをうまく活用できないか。

SNSの活用による子や孫、地域の子供達若い世代とのつながりづくりも必要ではないか。後期高齢者を若歳の高齢者が介護する老々介護も始まっている。

③防犯・防災対策について

防犯については、上常吉の野田川方面では道路幅、街灯など気になる部分がある。地域内の集落内においても暗い場所が多くあるので街灯、防犯灯を新・増設してほしい。神社の境内に自動車ですぐに乗り入れられたり、防犯サイレンが付けてあるが電源切断のうえ賽銭泥棒など空き巣が発生しているので、警察との協力のもとに地域全体に防犯カメラの設置が必要ではないか。

府道野田川大宮線の上常吉忠魂碑付近や下常吉公民館下の交差点付近は雪や草などの原因で交通安全上の課題がある。集落内でガードレール設置の必要箇所を点検し、必要箇所には事故が起きる前に早急な設置が必要である。

地域内では、大宮第二小学校区防犯ステーションを組織化しており、通学路の交通安全看板や桃太郎旗の設置、ステーションの啓発活動など防犯活動を実施している。また、大宮第二小学校区の子供を守る会と連携して児童生徒の通学の安全活動を行っている。防犯対策にもSNSが活用できないか。

防災については、消防団と自主防災会で定期的な防災訓練を実施して、区民の防災意識向上を図っている。しかし、消防団員の確保や自主防災会員の拡大、要支援者対応マニュアルの作成やその体制整備、各地区の広場等に防災備蓄倉庫及び安全柵等の安全施設の設置が課題である。また、地域防災計画の策定が必要ではないか。防災、減災対策は災害が発生する前に実施することで、災害が起きてからでは遅いという意識付けが必要ではないか。

④自然環境対策について

地域内において常吉小学校跡地付近や区有林などを活用して常吉桜公園や崇山桜公園、倉垣桜公園など桜公園の整備を進めている。また、営農組合員や区民で区内の道路や河川の草刈り、道路のごみ拾い、水路掃除などを実施している。

奥大野田舎地に治山ダムと作業道が完成し山林の管理が可能になったが、まだ地域内には未整備、改修が必要な作業道や林道が多くあり、その整備が課題である。また、杉・檜の植樹によって山が荒廃しているのも課題である。真竹がない地域がある反面、放置竹林が目立ち、山林環境を変えている。

花街道や親水河川公園整備など地域の集落の自然環境整備は少しずつ進んでいるが、花と

野菜、有機の地域・里づくり、花の講演会、奥山などの里山保全、虫繁殖、ため池保全など自然を上手に活用した自然環境保全に対する区民の意識向上を図ることが課題である。

⑤コミュニティ活動について

当地域は、公民館、村づくり委員会など各種団体が数多く連携して地域活性化のための活動が進んでいる。特に、新しい取り組みとしてオープンガーデンやオープンカフェ、花街道などがオープンガーデンネットワークやなでしこフラワーズ、ファイヤーなど女性組織を中心に活発な活動を行っており、女性の交流が進み地域の活性化に寄与している。しかし、従来からある活動の維持が精一杯で、新たな展開には課題が多い地域もある。

大宮第二小学校区長連絡協議会は、広域的に自治の連携を進め、広域的な課題に取り組んでいるが、地区間交流など今後の進め方について課題が残る。

京丹後市合併時の申し合わせ事項のなかで地域内で現在二つの大きな課題が残っている。その一つは公民館制度で、当地域は大宮第二地区公民館として館長、主事が各地区交代で職務につき、各地区の公民館は分館扱いとなっているが、市内では旧大宮町だけの制度であり、早急にその見直しをしてほしい。二つ目は、奥大野区を始め地域内の区は法人格を持つ地縁団体であるが、市内全域ではまだ任意団体としての区が多いと聞いているので、早くその解消を行うことが重要である。

川にごみを流す人などマナーが悪い、隣近所の付き合いが薄れている、また文化面の理解や社会性のない人やボランティアに無関心な人が多いなど子供の体験学習機会はあるが、大人に対する学習機会が少ないように感じる。まだ不合理なしきたりや古い人間関係が残っている。何事にもリーダー不足で会議や組織の役員等で同じ人が多く、村づくりやイベント参加に無関心な若者が多いことに加え、少子高齢化に歯止めがきかないため人口が減少して人材確保が難しい。

(3) 地域の資源を活かした地域づくり

①農産物の販路について

お米が主産品なので、常吉産米、倉垣産米など高付加価値（ブランド化）をつけ、JAや一般業者、独自ルートなどでの販売ができないか。野菜類については、自家消費分以外を一部地元百貨店で販売したらよいと思うが、品目・量とも少ないのが課題である。また、つねよし百貨店、畔蔵などで野菜市や米の販売を現在行っているが、産直施設としてもっと有効活用と競争力のある農産物の開発が課題である。

野菜の生産農家があり現在流通に乗った販路で消費されているが、地元の学校や福祉施設、医療施設などで消費することができないか。国営農地では、新しい取り組みとして畑のレストランが開催され、都会からも多くの家族連れが参加しているが、その方たちに販売する仕組みが課題である。地元の農産業振興として、農産物の販路拡大、農業後継者の確保、地元住民の消費拡大が課題である。

これからの日本は、安全な米、野菜をもっともっと作っていかないと、外国に頼っていてはとんでもないことになると思うが、安定した収入がない、きつい、えらい仕事なので農業

する若者がいないのが現実である。

②地産地消について

米も野菜も地産地消の人もいるが、多くの方は地元スーパーや地元食料品店などで購入している。地産地消の掛け声をかけながら、競争力のある産品を生み出す努力が必要である。また、農産物のファースト食品はどうだろうか。

ボランティア的な活動にも使うことで地域のもを食べてもらう農産物の地域通貨としての地産地消策はどうか。地産地消は地域力アップにつながる。

時代の流れか地域に地酒屋があるが製造休止状態で、お酒の品種も変わったが日本酒の製造を望む声もあり再生できないか。

③農地・山林の保全管理・営農組織の再構築について

農地は現在何とか管理されているが、もう限界にきているし、今後高齢化が進むとさらに難しくなる。水路農道など農業用施設の老朽化で傷みが見受けられるようになった。遊休地になると保全管理の意欲がなくなるので、遊休農地や荒廃地の拡大防止が必要である。また、大宮南地域全体の農地の保全管理状況を調査する必要がある。農地の荒廃、未利用農地の情報公開と活用案及び活用者の募集にネット活用を行うとよいと思うが、そのためには地域をどうしたいのか集落営農戦略計画等の夢を描く必要がある。その夢（計画）の中には、農地水環境保全活動の充実や集落営農の組織化、担い手・後継者対策、共同機械・施設、農地・農業用施設の整備・維持管理などを盛り込む必要がある。丹後路谷内ファームや農事組合法人楽農くらがきなど既存法人や組織を活用して農業施設の維持管理や運営などの活動充実を図る必要がある。また各地区の集落営農の組織化はできていないが、若い人を入れて集落営農等組織化する必要がある。また、異業種の参入も検討すべきである。

山林は、補助制度等に乗った部分は管理されているが、それ以外はできていないのでいかにして管理するかが課題である。また、分収造林、林道の荒廃が著しいが、区有林があれば区が管理を目的に整備し、間伐材の有効活用及び村役を復活させて管理できないか。竹炭の有効活用の他に竹の成長抑制剤を大学と連携して開発することや更なる有効活用方法がないか検討する必要がある。

④有害鳥獣対策について

鹿、猪の被害を最小限に食い止めるべく網、フェンス、電柵等を設置して、個人、グループで頑張っているが被害が多く、居住の庭先まで荒しにくる。しかし、禁猟期間中に有害鳥獣捕獲駆除を集中的に実施したため鹿・猪の頭数が減少傾向にある。有害鳥獣対策は、有効な補助制度を活用しているが根本的な政策が必用なのではないか。また、山裾の整備や恒久的な防除柵の設置を検討する必要がある。防除柵等の対策から鳥獣類の嫌がる音・匂いによる対策が大学等との連携でできないか。有害鳥獣駆除班の充実も課題である。

獣害対策をしっかりとやらないと新規就農者も被害のない地域へ流れていると聞きます。

⑤特産品づくりについて

現在、米（コシヒカリ）以外にないが自然農法野菜、ヤーコン、青豆やそばなど特産品としてアピールできないか。また、米粉を活用した商品や野菜スイーツができないか。

⑥加工農産物について

谷内畔蔵を活用した付加価値の高い農産物のファースト食品はどうだろうか。

⑦共同作業場、共同農業機械等の整備について

上常吉などは共同作業場があるが集落営農支援のためには共同利用の農業機械や作業場の整備が必要となる。

⑧農業基盤整備事業について

地域全体では、基盤整備はほぼ完了しているが一部水路や農道の未整備箇所や老朽化による損傷が目立つ箇所がある。

農業用水の環境保全のため川の大切さや河川美化の意識高揚を図り、河川への不法投棄撲滅運動を地域ぐるみで取り組む必要がある。

(4) 安心安全で暮らしやすい基盤づくり

①道路、歩道の新設・改良の整備促進について

地域内の市道及び府道の道路・歩道の新設・改良が必要である。また、区民が歩いて危険箇所の調査を実施することも必要である。街灯の新増設や危険な交差点に信号が必要である。除雪をきれいにしてほしい。

②河川改修の整備促進について

府、市の管理河川の改修ができていない。常吉川の浚渫と法面の改修が必要である。

③集落内幹線下水路の新設・改良について

下常吉中路区内排水路や市道奥大野中央線幹線下水路が未整備である。また、奥大野、常吉地区は、合併浄化槽整備地域となっており、基盤整備が大変遅れている。

④公共施設等について

郷蔵や公民館など地域の重要な施設の老朽化が著しく雨漏りやトイレ、遊具、フェンス、自転車置き場など早急な改修や修繕が必要である。また、祭り倉庫、図書館、ミニ集会所、地域防災倉庫など公共施設が不足しているので改善する必要がある。特に、地区内に安心安全な児童遊園地、プレーパークが少ない。

また、店舗が少ないので日常の買い物が不便であり、食堂や花屋、ケーキ屋、コンビニなど生活関連施設の充実も求められている。音楽ホールや映画館などの要望も上がっている。文化財が一目でわからない。

⑤健康づくりについて

正しい健康情報を伝える場をつくる必要がある。公民館や地区体協などが主催するグラウンドゴルフやペタンクなど各種運動競技大会や地区内運動クラブの活発な活動が社会体育の振興と健康増進に役立っているため、地区内から全国大会へ出場し好成績を残す優秀な人材が育ってきている。

健康のための河川敷や農道などを遊歩道や散策道として利用している区民も多く、ウォークラリー施設や健康スポーツセンター施設など健康に必要な施設整備が必要である。

⑥生涯学習について

公民館活動や福祉の会、老人会などで女性講座やすこやかクラブ、サークル活動などが開催されている。高齢者の集まる場所がなく、健康な高齢者の自立的な遊び、学習組織づくりができないか。南地域の文化財施設等の共有活動がない。

⑦職場や所得の確保について

グローバルな経済環境のなかで経済が低迷しており、企業の業績回復が悪く所得確保が困難な状況になっているため低所得者の増加と雇用不安が高まっている。

⑧公共交通の整備について

高齢者や通学の足確保にバス等の公共交通の充実整備が必要である。

⑨人口増加対策について

若者に住んでもらうために、テレビでもしているようなお見合いの企画ができればよいが。

Ⅲ 大宮南地域の将来像

「結の心でみんなが輝き 元気でにぎやかな大宮南」

人と人とが結びつき、みんなで助け合い、協力し、支え合いながらみんなが輝き、地域の豊かな自然、歴史、文化、産業を継承発展し、豊かで元気でにぎやかな大宮南地域を創造する。

Ⅳ 計画の期間

このまちづくり計画は、新しい地域づくりを実現するために必要な期間を10年間とし、平成35年を目標として設定することとする。ただし、この間の社会経済情勢等の変化や住民のニーズの変化にも対応するために必要に応じて見直す。

Ⅴ 計画の基本方針

次の基本方針に基づき「結の心でみんなが輝き 豊かで元気でにぎやかな大宮南」を目指す。

1 生き生きとした地域づくり

大宮南地域では、各地域において地域に根付いたイベント、伝統行事も数多くにぎやかに開催、継承されおり、引き続いて各地区において開催することに意義があるが、当地域でも少子化や人材不足、内容のマンネリ化などの課題も生じている。そこでそういった課題解決のためにも運動会や納涼祭（夏祭り）、音楽祭、パンプキンフェスティバル、子供キャンプなどを大宮南地域の交流イベントとして開催することで、情報発信の拡大、資金確保、参加者の増加、人材不足解消、人材育成、世代間交流、地区間交流などに効果があるのでないか。特に、オープンガーデンや花街道など花いっぱい運動を女性の力を活かす女子力によって大宮南地域全体に広げていければ地域力の向上に繋がっていく。

観光資源も磯砂山や崇山、裏陰遺跡などの遺跡、古墳、桜公園など多く存在し、その観光資源への地元の取り組みと併せて情報発信を広げることによって観光客の誘致に繋がっていくと考える。更に、農家民泊や空き家を活用した農業体験や田舎ぐらし体験の商品化をシステム化

して地域に広く展開することも重要である。

現在ある地域特産物を主力につねよし百貨店や畔蔵（あぜくら）等コミュニティービジネス施設と連携して全国へ情報発信することで販売を強化して大宮南地域のブランド化を図る。更に、大宮南小学校での食育活動を地域のお年寄りやお母さんが先生になって進める。

2 地域で支え合う安らぎの地域づくり

子どもを地域の宝とし、地域の子供は地域のみinnで育てる精神を広めるとともに体制、取り組みを検討し、ウォーキングを登下校に合わせるなど地域の子供に関わることを増やす工夫や努力を大宮南地域全域で行う。そして大人から大きな声で挨拶運動を取り組む必要があるが、大人同士でも挨拶ができない人がいることから並行して大人同士の挨拶運動も進める。

また、府や市と連携して大宮南地域セーフコミュニティーネットワークを設置し、地域住民の安心安全を数値化、共有化することで向上していく仕組みをつくっていくことが必要である。

地元の介護支援施設や障害者施設等地域内福祉施設と連携した福祉いきがい対策など高齢者福祉活動などを検討する。また、老人ホームを誘致し、高齢者の老後の生活環境を整備する。さらに、地域のコミュニティービジネス施設と連携した交流の場づくりと遠くに行き物に行けない高齢者の注文宅配などの買い物支援対策を検討する。

消防団や自主防災会、民生児童委員、福祉の会など各種団体と連携した独居老人の緊急時の対策として安否確認、避難誘導などの態勢づくりを進める。また、災害時に近隣住民が支えることができるよう日頃から独居老人への声かけ運動の展開を検討する。

鍵かけ等全区民が心がけて犯罪のおきない地域をつくる。また、安全対策にむけて危険場所等の確認マップづくりや街灯・防犯カメラの設置を進める。

自主防災組織の未設置地区は早期に設立するとともに大宮南地域の地域防災計画を策定し、災害時要援護者救済の対応マニュアルなど防災体制の強化を図る。また、各地区の広場に防災備蓄倉庫や安全施設を設置し、防災環境の整備強化を図る。地域に無関心、人に無関心な方が増えてきているがこれは災害時、非常時に大きな問題となるので日頃から地域や災害ボランティア精神の意識向上を図ることがコミュニティー活動を活発化することになる。

有志による組織的努力で具現化している美しい公園、また区民で地域環境を支える作業は大変重要な意味があるのでイチヨウ並木通りや桜通りを整備するとともに桜公園の充実、拡大を図りながら美しい名所を拡大していく。

竹野川及び常吉川の親水河川公園、堤防の整備、草刈りなど河川環境美化を進め区民の河川美化意識の高揚を図る。また、河川への不法投棄撲滅の運動推進により河川環境の保全を図る。

また、地域住民及び第三者に環境美化の意識向上を図りゴミ捨て行為の排除と地域内道路のクリーン大作戦を拡大し、美しい地域を創造する。

各地区の各種組織団体は、必要があって組織化されて多くの団体が活動しているが、地域の大きな行事には連携して協力し参加するようなシステムを作ることが必要である。また、各種団体の育成支援を行うとともに新たに生まれる団体の支援を積極的に行う。

京丹後市合併以降8年経過するが、地域に二つの大きな課題が残っている。その一つは、公民館制度で、当地域は大宮第二地区公民館として館長、主事が各地区交代で職務につき、各地区の公民館は分館扱いとなっているが、市内では旧大宮町だけの制度であり、早急にその見直しを市教育委員会へ要望する。二つ目は、奥大野区を始め地域内の区は、法人格を持つ地縁団

体であるが、市内全域ではまだ任意団体としての区が多いと聞いているので、早くその解消を行うよう市へ要望する。

3 地域の資源を活かした地域づくり

米や野菜、農産加工品等については、つねよし百貨店や畔蔵等コミュニティービジネス施設のネット販売で全国展開や顔の見える産直販売を行っていく。

美しい野山と農村風景の保全を図るため、集落周辺里山のすそ刈り、立木伐採等の手入れ、林道の整備と造林の手入れ、草刈一斉行動等地域を挙げての保全活動、荒廃農地の防止と再利用などさまざまな自然保全対策を実施する。

京力農場づくり事業による大宮南地域の各地域農場づくりプランを作成し、土地利用計画の推進、集落営農、農業法人による農業機械の共同利用や共同作業など効率的な生産方法への転換、地域で栽培される米や野菜・花などをブランド化、体験観光農園整備、農産物加工施設の整備、新規就農者の受け入れ体制整備などの対策を実施する。

深刻な有害鳥獣対策として防護も必要だが罠や檻で捕獲も強化するとともに猟友会との連携によって補助制度を活用し禁猟期間中の駆除を実施し個体数を減らすことも重要である。また、人里に出てくる必要のない豊かな里山づくりを進めることも重要である。

特産品（ブランド品）づくりは、全員が本気で真剣にやろうというメンバー集めがまず一歩で、先に看板だけ上げて満足してしまうのが一番怖い。ここでしか食べられない物一例をあげれば「ばらうどん（サバそぼろ＋常吉うどん＋うどん鉢）」など新しい特産品開発が必要である。また、農産加工場等設置して大宮南地域の加工特産品を商品開発し販売を強化する。

整備の必要な農地・農道・水路・パイプライン、ため池などの農地農業用施設は、リストを作成し、優先順位を定めていろいろな事業と関連付けて、京丹後市・京都府・国に要望する。

4 安心安全で暮らしやすい基盤づくり

安心で安全な暮らしやすい基盤づくりのため整備の必要な道路（側溝、水路を含む）・歩道並びに河川・水路、交通安全施設、公共施設（備品、設備等を含む）等のリストを作成し、優先順位を定めていろいろな事業と関連付けて、京丹後市・京都府・国に要望する。また、合併浄化槽の普及拡大とそれに伴う便所など住宅改修助成の増加を要望し、生活環境の改善を図る。

地域住民の健康増進を図るために、南地域の歴史、文化財、誇れる場所での、空き缶ひろいなど美化活動を兼ねたウォーキング大会やスポーツ大会などを公民館活動や地区体協で実施する。また、健康推進員が中心になり総合健診受診の働きかけを行い、受診率の公表と受診率向上を図り、地域住民の健康を確保する。さらに、簡単体操を地域に取り入れ、さまざまな会議や集会、イベント、寄合など人が集まる機会に、最初にその簡単体操を実践してから各会議や集会などを始めるという大宮南地域のルール作りを検討する。

生涯学習の一環として公的団体の役職等に若者・女性を起用、また退職者、高齢者の経験や知識、能力を地域づくり等に積極的に活用する。先進情報システムに対応できる人づくりを推進する。

職場や所得の確保対策として農業生産を主とした農業経営者組織の構築や観光農業や特産物直売所の設置により雇用を確保する。おしゃれな店舗を地域全体で支援することや地元出身者等の企業誘致で雇用を確保する。また、神山町を参考にして大宮南地域の将来ビジョン

をつくり、空き家・未利用農地を活用した就農者をネット等を利用して募集する。

区民及び個性のある家族のU・J・Iターン誘致PR、移住のための地元受け入れ体制の確立、閉鎖的な社会から脱却し、広く住民を受け入れる区民意識の改革、独身者への婚活事業による結婚支援などの対策を実施して交流人口、定住人口の増加を図る。

Ⅵ 基本方針に基づく具体的対策

1 生き活きとした地域づくり

① イベントについて

◆イベントの目的は、人材育成と世代間交流であり、またイベントの開催は、それぞれ意味があってできたものであり、地域性のある地域に根付いた祭りなどは各地域で開催することに意義がある。各地区の各イベントに対する具体的対策については、基本的に各地区で別表を参考にして対応すべきであると考え、少子化や人材不足、また運営のマンネリ化など各地域で対応できない課題は当協議会や区長協議会などと協議し、課題解決の方策を検討すべきであると考え。

◆納涼祭（夏祭り）、音楽祭、パンプキンまつりフェスティバル、子供キャンプ、ウォークラリー、オープンガーデン、花街道等々は、大宮南地域の交流イベントとして開催することで、情報発信の拡大、資金確保、参加者の増加、人材不足、人材育成、世代間交流、都市間交流にも効果があがるではないか。また、丹後町宇川で開催されている「おいしんぼ大会」のようなイベントを年1回大宮南地域のイベントとして企画してはどうか。

◆各地区の文化祭や公民館活動の充実を図る。

◆新たに地域活性化イベントや行事に取り組む団体の支援を行う。

◆大宮南地域（5地区）運動会を発展させ、三重、森本、五十河地域を含めた運動会（スポーツ大会）を実施する。

◆大宮南地域の歴史、文化財、誇れる場所をウォーキングする大会を開催する。

◆大宮南地域映画祭を開催する。

◆世界に誇る「丹後産特Aコシヒカリ」を手で植えて、かまどで炊いて食べる会を開催する。

② 伝統行事について

◆伝統行事についてもそれぞれ地域性のある地域に根付いた行事であり、地蔵祭りや山神祭り、秋祭りなどは各地域で開催することに意義がある。

◆伝統行事についても少子化、スタッフ不足が生じているが、若い女性も参加できる仕組みづくりをすることで、人材不足を補うことができないか検討すべきである。また、行事に必要な備品類、衣装なども補助事業等を活用して整備を図る。

◆伝統芸能・文化の継承のため都市住民との体験交流の促進を図る。

◆しめ縄づくり、わらそうり、竹トンボ、竹馬など昔の遊びや風習などの伝統を次代に伝える取り組みが必要である。

◆村の歴史を再認識し、村の物語を構築する。

◆大宮南地域の文化財が一目で理解できる資料作成と併せて歴史・文化の語り部を養成し後世に継承する。

③ 観光・特産物について

《観光》

◆名勝である磯砂山、崇山の登山道整備と案内板を充実する。また、山頂付近の広場や遊園地の整備と併せて磯砂山の女池と崇山の白糸の滝の整備を行う。

- ◆大宮南地域の歴史、観光名所、特産物などのマップやホームページを作成し、外部から人を呼び込む対策やウォーキングで巡るモデルコースを設定する。
- ◆大江山絵巻を初めとする京都府登録文化財を数多く所蔵する「岩屋寺」とあざとり地蔵で知られる「平地地蔵」をもっともっと広くPRし、大宮南地域の2大観光地とする。
- ◆国営三坂団地、奥大野団地の耕作放棄地に北海道の美瑛パッチワークに習い京丹後のパッチワークの丘を整備し、観光地化を進める。
- ◆平地地蔵とつねよし百貨店を結ぶ取り組みやPRなどもっと工夫すれば、いま以上に活かされと考える。
- ◆各地区の桜公園や神社など地域にある観光資源は、何れも目立たぬもので、具体的にどれを優先するかの検討が必要であり、その小さな資源を連携させることで大きな観光資源となる。
- ◆農家民泊や空き家を活用した農業体験や田舎ぐらし体験の商品化をシステム化して展開する。

《店舗・特産物》

- ◆特産物を育成する団体の支援を図る。
- ◆つねよし百貨店と畔蔵の活動支援と、新しい地域コミュニティの場としての継続を図り地元利活用の拡大とネット販売で販路の拡大に向けた取り組みを進める。また、つねよし百貨店、畔蔵に地域の特産物であるうどんや豆腐、漬物などの加工品、野菜・米などの農作物を展示、販売してもらう。
- ◆食の関連で酒造・小さな食卓・自然農法による野菜・こんにゃく作り・シイタケ菌打ち等々は体験観光として、常吉地区が実施した、田舎の体験（農作業・野菜作り・収穫）等を商品にして売るシステムづくりを進める。但し、実施の苦勞も聞いておく必要がある。
- ◆区民オーナーを募集して大同酒造の銘酒「若竹」の復活やどぶろく特区によってどぶろく生産、B級グルメ大会、村の四季の産品を販売、スイーツの村づくりをするなどして地元産業の振興を図る。
- ◆大宮南小学校での食育活動を地域のお年寄りやお母さんが先生になって進める。

《交流》

- ◆常吉川堤防敷きを整備し、ウォーキングコースを設定する。
- ◆花街道、オープンガーデンなど四季の花・地域づくりを女子力を活用して大宮南全体に広げる。

2 地域で支え合う安らぎの地域づくり

①児童福祉について

- ◆児童の登下校の安全を確保するために、PTA、子供見守り隊、子育てサロン、公民館地域活動団体等さまざまな人たちが登下校に合わせた可能な範囲の日常的な大人の動きで見守りを実施する。また、子どもを地域の宝とし、地域の子供は地域のみんなで育てる精神を広めるとともに体制、取り組みを検討し、ウォーキングを登下校に合わせるなど地域の子供に関わることを増やす工夫や努力を大宮南地域全域で行う。大人から大きな声で挨拶運動を取り組む必要があるが、大人同士でもできない人がいることから並行して大人同士の挨拶運動も進める。
- ◆つねよし百貨店や畔蔵等コミュニティビジネス施設に子供スペースを設置してお年寄りから子供まで交流できる場づくりを行う。

- ◆子供会館など子供たちの施設で卓球台等の遊具で子供たちが自由に遊ぶことができる環境を整備する。
- ◆府や市と連携して大宮南地域セーフコミュニティネットワークを設置し、地域住民の安心安全を数値化、共有化することで向上していく仕組みをつくっていくことが必要である。
- ◆しめ縄づくり、わらそうり、竹トンボ、竹馬など昔の遊びや風習などの伝統を次代に伝える取り組みが必要である。(再掲)
- ◆地域の行事に子どもたちが参加できるようにする。
- ◆子育て講演会の実施や子育てサロンの継続、充実を公民館や福祉の会など各種団体と連携して実施する。
- ◆地元の障害者福祉支援施設と連携した障害者等福祉活動などを検討する。

② 高齢者福祉について

- ◆地元の介護支援施設や障害者施設等地域内福祉施設と連携した福祉いきがい対策など高齢者福祉活動などを検討する。また、老人ホームを誘致し、高齢者の老後の生活環境を整備する。
- ◆つねよし百貨店や畔蔵等コミュニティ施設と連携した交流の場づくりと遠くに買い物に行けない高齢者の注文宅配などの買い物支援対策を検討する。
- ◆地域の行事などを通じた交流の継続と内容を工夫して高齢者が元気になってもらう仕組み作りを進める。高齢者の健康づくりを進める行事なども検討する。
- ◆地区運営のいろんな場面で高齢者の意見を聴くなど高齢者が培ってきた知識や経験を発揮でき、活躍する場を提供するなど老人会活動の充実を図る。
- ◆週に一回くらい集まる所を設置して、お茶など飲み雑談をする会を設けてはどうか。
- ◆職場と生きがいで創意工夫を凝らし、老若男女が一体で和気あいあいに暮らせる地域の創出で元気な中高齢者づくりを促進する。
- ◆空き家を活用した、ふれあいミニサロンを開設する。
- ◆現在実施されているふれあいサロンの充実を図る。
- ◆消防団や自主防災会、民生児童委員、福祉の会など各種団体と連携した独居老人の緊急時の対策として安否確認、避難誘導などの体制づくりを進める。また、災害時に近隣住民が支えることができるよう日頃から独居老人への声かけ運動の展開を検討する。
- ◆地区老人会の組織が継続し、充実するための支援強化を図る。
- ◆地区敬老会がマンネリ化しないよう、魅力のある中身とし、地域をあげて祝うことができるよう検討する。しかし、昨年市も厳しい財政状況のなか敬老会補助金の減額要請時に敬老会の見直し等基本的な方針を示すよう区長会等でお願ひした経過もあるので運営については課題も残る。
- ◆独居老人や高齢者世帯から屋根の雪下ろしの依頼があれば対応できるよう体制の整備を図る。
- ◆必要に応じ、隠居など的高齢者にも市広報紙や地区お知らせなどの情報がとどくよう地域をあげて取り組む。

③ 防犯・防災対策について

- ◆施錠、金銭管理の場所など日常的な注意喚起が必要である。
- ◆信号機やミラーの設置など交通安全対策の強化策検討も必要ではないか。
- ◆各家庭に目に見える場所に「防犯は家にカギ、防火は火は消したか確認 OK」シール配布はどうか。
- ◆鍵かけ等全区民が心がけて犯罪のできない地域をつくる。

- ◆安全対策にむけて危険場所等の確認マップづくりや街灯・防犯カメラの設置を進める。
- ◆高齢者や子ども向けの防犯教室を実施する。
- ◆自主防災組織の未設置地区は早期に設立する。
- ◆犯罪抑制に青色の光に効果があると奈良県警も採用している、青色の防犯灯を採用してみてもどうか。
- ◆消防団員の確保と消防資機材の充実と自主防災会会員拡大と防災資機材の充実で地域の消防力を強化する。
- ◆消防団員の昼間災害出動が困難なため機能別消防団員制度を実現する。
- ◆大宮南地域で定期的な防災訓練実施により区民の防災意識を向上する。
- ◆防災関係団体が連携して、災害弱者等に対して、日頃から災害時の対応を準備する。
- ◆大宮南地域の地域防災計画を策定し、災害時要援護者救済の対応マニュアルなど防災体制の強化を図る。
- ◆消火栓の新設及び老朽施設の改良を進める。
- ◆平太郎山広場など各地区に防災備蓄倉庫や安全施設を設置し、防災環境の整備強化を図る。

④自然環境対策について

- ◆有志による組織的努力で美しい公園として具現化している、また区民で地域環境を支える作業は大変重要な意味があるので今後も継続発展していく。
- ◆イチョウ並木通りや桜通りを整備するとともに桜公園の充実、拡大を図りながら美しい名所を拡大していく。
- ◆集落周辺里山のすそ刈り、立木伐採等の手入れ実施する。
- ◆竹野川及びその支流の常吉川浚渫と親水河川公園、堤防の整備、草刈りなど環境美化を進め区民の河川美化意識の高揚を図る。また、河川への不法投棄撲滅の運動推進により河川環境の保全を図る。
- ◆林道の整備及び造林の手入れと間伐材の有効利用を図る。
- ◆荒廃竹林の整備と竹材の有効活用を図る。
- ◆草刈一斉行動日等、地域を挙げての保全活動の実施など区の村役の継続を図る。
- ◆ため池の外来魚駆除と蛭が住める水路を整備する。
- ◆広葉樹林の保全と拡大を図り、防災機能と水量・水質浄化の向上を図る。
- ◆荒廃農地の防止、再利用を進め、農道、水路、ため池、パイプラインなど農業用施設の改良整備で田舎の自然環境保全を図る。
- ◆農地・水・環境保全向上対策事業や命の里・里力再生事業など有効な補助事業を活用して住民主体の自然環境保全対策を実践していく地域態勢強化を図る。
- ◆南地域で花街道の取組みなど地域全体で花いっぱい運動の活動を展開し、地域内を一年中花道路として整備する。
- ◆オープンガーデンの支援と地域全体への拡大によって美観地域の拡大と交流人口の増加を図る。
- ◆地域住民に花づくり資材を提供することによって花づくりの担い手を育成する。
- ◆地域住民及び第三者に環境美化の意識向上を図りゴミ捨て行為の排除と地域内道路のクリーン大作戦を拡大し、美しい地域を創造する。
- ◆米や野菜を有機栽培により行う里づくりを目指す。

⑤コミュニティー活動について

- ◆介護施設、障害者施設等地域内福祉施設やコミュニティービジネス施設などとの連携が新た

な活動のポイントになるのではないか

◆南地域の公民館、村づくり委員会、なでしこフラワーズ、福祉の会、長寿会を始め各地区の各種組織団体は、必要があって組織化されて多くの団体が活動しているが、地域の大きな行事には連携して協力し参加するようなシステムを作ることが必要である。また、各地区の各種団体は、設立目的の達成に向けて活動を充実発展させるとともに新しい事業を積極的に取り入れる工夫をしていくことが重要である。さらに、各種団体の育成支援を行うとともに新たに生まれる団体の支援を積極的に行う。

◆生涯学習を中心的に進める公民館組織の充実と区広報紙、公民館だよりやホームページなどを定期的に発行、配信するなど積極的に情報を区民に流し、コミュニティー意識の向上を図る。

◆地域に無関心、人に無関心な方が増えてきているがこれは災害時、非常時に大きな問題となるので日頃から地域や災害ボランティア精神の意識向上を図る取り組みを進める必要がある。

◆京丹後市合併時の申し合わせ事項のなかで現在二つの大きな課題が残っている。その一つは、公民館制度で、当地域は大宮第二地区公民館として館長、主事が各地区交代で職務につき、各地区の公民館は分館扱いとなっているが、市内では旧大宮町だけの制度であり、早急にその見直しを市教育委員会へ要望する。二つ目は、奥大野区を始め地域内の区は、法人格を持つ地縁団体であるが、市内全域ではまだ任意団体としての区が多いと聞いているので、早くその解消を行うよう市へ要望する。

3 地域の資源を活かした地域づくり

① 農産物の販路について

◆米や野菜、農産加工品等については、つねよし百貨店や畔蔵（あぜくら）等コミュニティービジネス施設のネット販売で全国展開や顔の見える産直販売を行っていく。

◆地域の基本的にとどの農産物も重量単価が低いので販売単位を少なくして高付加価値を付け、何とかセット、美味しい料理の仕方・食べ方レシピを付ける等々方法を模索して販売する。

◆地域内農家は基本的に中小企業なので小さいマーケットでの勝負になる、そのため各企業としての特性を活かせるマーケットに的を絞り、経営計画を立ててできることから実行していくことが重要である。

② 地産地消について

◆米や野菜、農産加工品等については、つねよし百貨店や畔蔵や地元食品店で顔の見える産直販売を行っていく。（再掲）

◆地域の野菜等を学校給食に使ってもらうための取組みを検討する。

③ 農地・山林の保全管理・営農組織の再構築について

◆美しい野山と農村風景の保全を図るため、次の対策を実施する。（一部再掲）

- ・集落周辺里山のすそ刈り、立木伐採等の手入れ実施
- ・竹野川及びその支流の常吉川浚渫と草刈等環境整備
- ・林道の整備及び造林の手入れと間伐材の有効利用
- ・荒廃竹林の整備と竹材の有効活用
- ・大学と連携して竹被害拡大防止に竹の成長抑制薬開発
- ・区の村役の継続発展
- ・草刈一斉行動日等、地域を挙げての保全活動の実施
- ・ため池の外来魚駆除と蛭が住める水路整備

- ・広葉樹林の保全と拡大を図り、防災機能と水量・水質浄化の向上
- ・荒廃農地の防止と再利用
- ・農業用施設（農道、水路、ため池、パイプラインなど）の改良整備
- ・不耕作地の原因調査、適地適作の作物導入
- ・特産品づくりで農地の荒廃化、遊休化の防止
- ・区内の農業実態や課題の把握と対策を検討

◆京力農場づくり事業による大宮南地域の各地域農場づくりプランを作成し、次の対策を実施する。

- ・土地利用計画の推進と未利用農地の情報公開をして活用案と共に利用者の公募を実施
- ・農業経営者の育成とネットワーク化を進め、営農規模、生産量拡大
- ・農業経営者に必要な共同利用施設を整備
- ・農業機械の共同利用や共同作業など、効率的な生産方法へ転換（集落営農、農業法人）
- ・地域で栽培される米や野菜、花などをブランド化
- ・消費者ニーズにあった農産物の生産と地産地消、地産都消販売
- ・体験観光農園整備（新規作物、果樹、景観作物：食事宿泊可能）
- ・農産物加工施設の整備
- ・兼業農家育成と新規就農講座の開設
- ・お米のオーナー制度を検討
- ・遊休農地を小さく分割して市民型農園を開設
- ・自然農法日本一の村創造（お客さんが農産物を買いに足を運ぶ村）
- ・都会から農業希望者を受け入れる

◆荒廃した農地等の管理として、草刈り等を請け負う組織をつくり、PR してみてもどうか。

④有害鳥獣対策について

- ◆防護も必要だが罾や檻で捕獲も強化し、個体数を減らさないと被害が減少しない。
- ◆猟友会との連携によって補助制度を活用し禁猟期間中の有害駆除を実施する。
- ◆山裾の雑木を15m～20m程切り開くと隠れる所がなくなり、警戒して降りてこなくなり農作物の被害が少なくなるので農地周辺の鳥獣害緩衝帯（バッファゾーン）の整備を図る。
- ◆電気柵、金網柵等によってイノシシ、シカ対策を強化する。
- ◆有害鳥獣出没の対策より、人里に出てくる必要のない豊かな里山づくりを進める。
- ◆大学との連携で鳥獣類の嫌がる音や匂いによる対策が出来ないか。

⑤特産品づくりについて

- ◆ここでしか食べられない物「ばらうどん（サバそぼろ＋常吉うどん＋うどん鉢）」など新しい特産品開発が必要である。
- ◆特産品（ブランド品）づくりは、全員が本気で真剣にやろうというメンバーを集めがまず一歩です。先に看板だけ上げて満足してしまうのが一番怖い。
- ◆特産品として大宮南地域産の米粉を活用した商品や野菜のスイーツなどを検討してはどうか。
- ◆コシヒカリの有機栽培、減農薬栽培の推進を図る。

⑥加工農産物について

- ◆先進地視察の実施で地域に合うものを検討する。

⑦共同作業場、共同利用機械等の整備について

- ◆京力農場づくり事業による大宮南地域の各地域農場づくりプランを作成し、次の対策を

施する。

- ・農業経営者に必要な共同利用施設を整備
- ・農業機械の共同利用や共同作業など、効率的な生産方法へ転換（集落営農、農業法人）

⑧農業基盤整備事業について

◆整備の必要な農地・農道・水路・パイプライン、ため池など農地農業用施設のリストを作成し、優先順位を定めているような事業と関連付けて、京丹後市・京都府・国に要望する。

4 安心安全で暮らしやすい基盤づくり

①道路、歩道の新設・改良の整備促進について

◆整備の必要な道路（側溝、水路を含む）、歩道のリストを作成し、優先順位を定めているような事業と関連付けて、京丹後市・京都府・国に要望する。

◆整備の必要な信号機設置、カーブミラー、防犯灯等交通安全施設整備のリストを作成し、優先順位を定めているような事業と関連付けて、京丹後市・京都府・国に要望する。

◆市地区貸与除雪機の早期配置を要望する。

◆光ファイバーの普及拡大と経費助成を要望する。

◆除雪作業を丁寧に実施するよう指導を要望する。

◆散歩やウォーキング等ができるよう常吉川堤防の舗装整備を図る。

②河川改修の整備促進について

◆改修の必要な河川、水路等のリストを作成し、優先順位を定めて色んな事業と関連付けて、京丹後市・京都府・国に要望する

③集落内幹線下水路の新設・改良について

◆合併浄化槽の普及拡大とそれに伴う便所など住宅改修助成の増加を要望する。

◆公共下水道整備の必要な下排水路の新設、改良のリストを作成し、優先順位を定めているような事業と関連付けて、京丹後市・京都府・国に要望する。

④公共施設等について

◆整備の必要な公共施設、備品、設備等のリストを作成し、優先順位を定めているような事業と関連付けて区民負担や京丹後市・京都府・国へ要望する。

◆コンビニや花屋、ケーキ屋など地域に必要なお店については、地域外に呼掛けや募集することで実現を図る。

◆整備の必要な児童遊園地、遊具等のリストを作成し、優先順位を定めているような事業と関連付けて区民負担や京丹後市・京都府・国へ要望する。

⑤健康づくりについて

◆大宮南地域の歴史、文化財、誇れる場所での、また空き缶ひろいなど美化活動を兼ねたウォーキングする大会を実施する。（再掲）

◆スポーツ大会などを公民館活動や地区体協で実施する。また、市スポーツ推進員の活動でニュースポーツなどを広める。

◆健康推進員が中心になり総合健診受診の働きかけを行い、受診率の公表と受診率向上を図り、地域住民の健康を確保する。

◆簡身体操を地域に取り入れ、さまざまな会議や集会、イベント、寄合など人が集まる機会に、最初にその簡身体操を実践してから各会議や集会などを始めるという大宮南地域のルール作りを検討する。

◆各区には、河川敷や国営農場内に農道を兼ねた安全な散策道があるのでルートや距離を示

した案内板等を整備して、散策やウォークラリーのできるような散策道に整備する。

◆中央公民館の協力・指導のもとに、簡単で楽しく老若男女が参加できる体力づくり健康維持のためのスポーツを普及する。

◆各種クラブ組織の育成支援、連携して区民のスポーツ意識を向上を図るとともに子供時代からスポーツの環境整備を行い、代表スポーツ選手を育成する。

◆軽スポーツや軽体操を普及進展させ、区民の体力強化や広域的なスポーツ活動の推進を図り、地域間交流を促進する。

⑥生涯学習について

◆公的団体の役職等に若者・女性を起用し、組織活性化と人材育成を促進する。

◆退職者、高齢者の経験や知識、能力を地域づくり等に積極的に活用する。(一部再掲)

◆先進情報システムに対応できる人づくりを推進する。

◆ボランティアの必要性を区民に広く広報する。

◆夜なべ談議や出前講座などを活用した研修機会を地元で確保する。

◆子ども会、婦人会、老人会などの組織の強化を図る。

◆公民館活動の充実を図る。(再掲)

◆シルバー等による能力開発・生涯学習として、南地域の文化財施設を再認識して物語を構築し、地域の文化財が一目でわかるマップを作成する。

⑦職場や所得の確保について

◆農業生産を主とした農業経営者組織を構築のうえ農業者の雇用を確保する。

◆観光農業や特産物直売所の設置により雇用を確保する。

◆おしゃれな店舗を地域全体で支援することで雇用を確保する。

◆地元出身者等の企業誘致で雇用を確保する。

◆地元企業商品の地産地消を地域全体で支援することによって雇用を確保する。

◆地域貢献型の事業展開を要望する。

◆村営食堂創設で雇用を確保する。

◆神山町を参考にして大宮南地域の将来ビジョンをつくり、空き家・未利用農地を活用した就農者をネット等を利用して募集する。

⑧公共交通の整備について

◆当市では現在 200 円バスを運行している、回数が少ないが現状でよいのではないか。ワンボックス車の追加運行するか。

⑨人口増加対策について

◆下記の対策を実施して交流人口、定住人口の増加を図る

- ・区民及び個性のある家族のU・J・Iターン誘致PR
- ・若者の流出阻止
- ・安い定住用住宅の確保
- ・移住のための地元受け入れ体制の確立
- ・農業志望者に農地を確保
- ・運動会や夏祭り、秋祭りなどに参加して区民に溶け込む仕組み
- ・閉鎖的な社会から脱却し、広く住民を受け入れる区民意識の改革
- ・地域資源である緑豊かな自然や伝統芸能・文化・歴史の継続発展
- ・高齢者のための買い物など有償ボランティア制度を検討
- ・病院の誘致

- ・スーパー、コンビニ、商店の誘致
- ・古いしきたりや人間関係の改善
- ・子供にとって将来希望がもてる職場のある村の創造
- ・独身者への婚活事業による結婚支援

Ⅶ 今後5年間の重点対策

1 ソフト対策

(1) 生き生きとした地域づくり

①情報発信の拡大、資金確保、参加者の増加、人材不足解消（大学との連携も含む）、人材育成、世代間交流、地区間交流などにも効果があるので運動会や納涼祭（夏祭り）音楽祭、パンプキン祭り、子供キャンプなど大宮南地域の交流イベントを検討する。

特に、オープンガーデンや花街道など花いっぱい運動を女子力によって大宮南地域全体に広げていくことを進める。

②観光資源も磯砂山や崇山、裏陰遺跡などの遺跡、古墳、桜公園など多く存在し、その観光資源への地元の取り組みと併せてPRや情報発信を広げる。

更に、農家民泊や空き家を活用した田舎体験、田舎ぐらし体験の商品化をシステム化して地域に広く展開することも重要である。

(2) 地域で支え合う安らぎの地域づくり

①子どもを地域の宝とし、地域の子供は地域のみんで育てる精神を広めとともに体制、取り組みを検討し、ウォーキングを登下校に合わせるなど地域の子供に関わることを増やす工夫や努力を大宮南地域全域で行う。そして大人から大きな声で挨拶運動に取り組む必要があるが、大人同士でも挨拶ができない大人がいることから並行して大人同士の挨拶運動も進める。

②府や市と連携して大宮南地域セーフコミュニティネットワークを設置し、地域住民の安心安全を数値化、共有化することで向上していく仕組みをつくっていく。

③地元の介護支援施設や障害者施設等地域内福祉施設と連携した福祉いきがい対策など高齢者福祉活動などを検討する。また、老人ホームを誘致し、高齢者の老後の生活環境を整備する。さらに、つねよし百貨店や畔蔵等コミュニティビジネス施設と連携した交流の場づくりと遠くに買い物に行けない高齢者の注文宅配などの買い物支援対策を検討する。

④消防団や自主防災会、民生児童委員、福祉の会など各種団体と連携した独居老人の緊急時の対策として安否確認、避難誘導などの態勢づくりを進める。また、災害時に近隣住民が支えることができるよう日頃から独居老人への声かけ運動の展開を検討する。

⑤鍵かけ等全区民が心がけて犯罪のできない地域をつくる。また、安全対策にむけて危険場所等の確認マップづくりや街灯・防犯カメラの設置を進める。

⑥自主防災組織の未設置地区は早期に設立するとともに大宮南地域の地域防災計画を策定し、災害時要援護者救済の対応マニュアルなど防災体制の強化を図る。また、各地区の広場に防災備蓄倉庫や安全施設を設置し、防災環境の整備強化を図る。

⑦有志による組織的努力で美しい公園として具現化している、また区民で地域環境を支える作業は大変重要な意味があるのでイチョウ並木通りや桜通りを整備するとともに桜公園

の充実、拡大を図りながら美しい名所を拡大していく。

- ⑧竹野川及び常吉川の親水河川公園、堤防の整備、草刈りなど環境美化を進め区民の河川美化意識の高揚を図る。また、河川への不法投棄撲滅の運動推進により河川環境の保全を図る。また、地域住民及び第三者に環境美化の意識向上を図りゴミ捨て行為の排除と地域内道路のクリーン大作戦を拡大し、美しい地域を創造する。
- ⑨京丹後市合併以降の二つの大きな課題で、その一つは、公民館制度で、当地域は大宮第二地区公民館として位置付けされているが、各地区の公民館は分館扱いとなっている。しかし、各地区共活発な地区公民館として合併以前から機能している上、市内では旧大宮町だけの制度であり、早急にその見直しを市教育委員会へ要望する。二つ目は、地域内の区は、法人格を持つ地縁団体であるが、市内全域ではまだ任意団体としての区が多いと聞いているので、公平性もあり早くその解消を行うよう市へ要望する。

(3) 地域の資源を活かした地域づくり

- ①米や野菜、農産加工品等地域特産品については、つねよし百貨店や畔蔵等コミュニティービジネス施設のネット販売で全国展開や顔の見える産直販売を行っていく。又、地域の歴史や資源を活用した新しい地域特産品開発を積極的に進める。
- ②美しい野山と農村風景の保全を図るため、集落周辺里山のすそ刈り、立木伐採等の手入れ、林道の整備と造林の手入れ、草刈一斉行動等地域を挙げての保全活動、荒廃農地の防止と再利用などさまざまな自然保全対策を実施する。
- ③京力農場づくり事業による大宮南地域の各地域農場づくりプランを作成し、土地利用計画の推進、集落営農、農業法人による農業機械の共同利用や共同作業など効率的な生産方法へ転換、地域で栽培される米や野菜・花などをブランド化、体験観光農園整備、農産物加工施設の整備、新規就農者の受け入れ体制整備などの対策を実施する。
- ④深刻な有害鳥獣対策として防護も必要だが罾や檻で捕獲も強化するとともに猟友会との連携によって補助制度を活用し禁猟期間中の駆除を実施し個体数を減らすことも重要である。また、人里に出てくる必要のない豊かな里山づくりを進める。

(4) 安心安全で暮らしやすい基盤づくり

- ①地域住民の健康増進を図るために、大宮南地域の歴史、文化財、誇れる場所での、空き缶ひろいなど美化活動を兼ねたウォーキングする大会やスポーツ大会などを公民館活動や地区体協で実施する。また、健康推進員が中心になり総合健診受診の働きかけを行い、受診率の公表と受診率向上を図り、地域住民の健康を確保する。さらに、簡身体操を地域に取り入れ、さまざまな会議や集会、イベント、寄合など人が集まる機会に、最初にその簡身体操を実践してから各会議や集会などを始めるという大宮南地域のルール作りを検討する。
- ②職場や所得の確保対策として農業生産を主とした農業経営者組織の構築や観光農業や特産物直売所の設置により雇用を確保する。おしゃれな店舗を地域全体で支援することや地元出身者等の企業誘致等により雇用・職場を確保し、若者の定住を図る。また、神山町を参考にし大宮南地域の将来ビジョンをつくり、空き家・未利用農地を活用した就農者をネット等を利用して募集する。
- ③区民及び個性のある家族のU・J・Iターン誘致PR、移住のための地元受け入れ体制の確立、閉鎖的な社会から脱却し、広く住民を受け入れる区民意識の改革独身者への婚活事業

による結婚支援などの対策を実施して若者の交流人口、定住人口の増加を図る。

2 ハード対策

(1) 生き生きとした地域づくり

①観光資源を活かすために地元の取り組みと併せて命の里づくり事業等を活用して整備が必要なハード事業のリストを作成し、優先順位を定めて京丹後市・京都府・国に要望する。

(2) 地域で支え合う安らぎの地域づくり

①犯罪のおきない地域をつくるために街灯・防犯カメラの設置を進める。

②大宮南地域の地域防災計画を策定し、各地区の広場に防災備蓄倉庫や安全施設等を整備して防災環境の整備強化を図る。

(3) 地域の資源を活かした地域づくり

①美しい野山と農村風景の保全を図るため、林道の整備と造林の手入れなどさまざまな自然保全対策を実施する。

②京力農場づくり事業による大宮南地域の各地域農場づくりプランを作成し、集落営農、農業法人による、共同作業施設、共同作業農機具、農産物加工施設の整備などを命の里づくり事業等いろんな事業と関連付けて、京丹後市・京都府・国に要望する。

③深刻な有害鳥獣対策として防護柵、フェンスなどの設置拡大で被害を防止する。

④整備の必要な農地・農道・水路・パイプライン、ため池など農地農業用施設は、リストを作成し、優先順位を定めて命の里づくり事業等いろんな事業と関連付けて、京丹後市・京都府・国に要望する。

(4) 安心安全で暮らしやすい基盤づくり

① 安心で安全な暮らしやすい基盤づくりのため整備の必要な道路・歩道並びに河川・水路、交通安全施設、公共施設（備品、設備等含む）等のリストを作成し、優先順位を定めて命の里づくり事業等いろんな事業と関連付けて、京丹後市・京都府・国に要望する。

②公共下水道、合併浄化槽の普及拡大とそれに伴う便所など住宅改修助成の増加を要望し、生活環境の改善を図る。